

横浜みどりアップ計画市民推進会議 第59回広報・見える化部会 会議録	
日 時	令和7年5月26日（月）10時から12時まで
開 催 場 所	市庁舎18階共用会議室なみき19
出 席 者	大竹部会長、金井委員、河原委員、北原委員、酒井委員、飛田委員、望月委員（五十音順）
欠 席 者	なし
開 催 形 態	公開（傍聴なし）
議 題	<p>1 広報事業の評価・提案について</p> <p>2 市民目線での情報提供のあり方について</p> <p>3 その他</p>
議 事	<p>(事務局)</p> <p>本日は、委員の皆様には、ご多用のところお集まりいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>ただいまから、「横浜みどりアップ計画市民推進会議 第59回広報・見える化部会」を開催いたします。</p> <p>まず、本日の会議について報告いたします。本会議は、横浜みどりアップ計画市民推進会議運営要綱第7条第3項の規定により、半数以上の出席が会議の成立要件となっておりますが、本日、委員定数7名のところを7名全員が出席されているため、会議が成立することを報告いたします。また、本会議は、同要綱第8条により公開となり、会議室内に傍聴席と記者席を設けています。また、本日の会議録も公開となりますので、会議録は公開前に各委員にご確認をお願いします。なお、会議録に発言者氏名を記載すること、本会議中に撮影した写真をホームページおよび広報誌等へ掲載することを併せてご了承願います。</p> <p>次に、お手元の配付資料について確認いたします。資料は、「次第」、「資料1 市民推進会議2024年度報告書（案）【抜粋】」、「資料2 市民目線での情報提供のあり方について」、そして、本日使用するスライドと参考資料、「みどりアップ計画冊子」等をとじた緑色のフラットファイルを置いてあります。参考としてご活用ください。</p> <p>また、本日は事務局として、戦略企画課が出席しています。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>事務局からは以上です。それでは、今後の議事進行につきましては、大竹部会長にお願い申し上げます。大竹部会長、よろしくお願ひします。</p> <p>(大竹部会長) 前回、私たちが広報・見える化部会としてどんな取組をし、取材していくかという話がありました。次回までけつこう間が開くとも聞いていますので、今日は更に具体的に決められることを決めて、今後スムーズに活動できればと思っています。</p> <p>それでは、次第に沿って進めます。まずは、次第の1番、「広報事業の評価・提案について」です。事務局から説明をお願いします。</p>

	(事務局説明)
(大竹部会長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>これから皆さんでもう少し議論を進めていきたいと思っています。今の説明を受けて、不明点や質問はありますか。</p>
(飛田委員)	<p>私は前職がMonitoring and Evaluation Officerでした。私たちがやっていた方法とどう違うのかという部分があります。</p> <p>計画そのものの大きな柱が三つあって、一つひとつの事業としてやってきて、そこまでは分かりました。</p> <p>横浜市はマトリックス法による行政評価はやっているのですか。マトリックスは数学で言うと行列なのですが、一つひとつの項目があり、それを大きな表にし、大きな目標を立てます。その目標どおり行うための具体的な施策をどんどん小さくしていき、一番下の項目では具体的にどういう事業を行うかというのがあります。その事業について、何が何年度に実施されればいいのか、いわゆるやらなければならぬリストのようなものをつくります。会計年度の終了前にそれを一つひとつ「できた、できない」と評価していきます。</p> <p>予算の支出にあたり、最初の段階で表をつくります。それを基に、「ここまで予算が消化できている」と評価します。できていない場合はなぜか、問題点はどこにあるのかをまとめます。</p> <p>私の前職の場合、国連総会で報告します。</p> <p>横浜市では評価についてはどのような手法を取っていますか。</p>
(事務局)	<p>大きな目標として、横浜市水と緑の基本計画があります。それを達成するための実行計画として、このみどりアップ計画があります。このみどりアップ計画の中に三つの柱があり、その中に5か年の具体的な施策と事業があり、数値が入ってきます。</p> <p>その数値ができたかできなかったかの評価も含めて、これから柱ごとの部会を開催します。</p> <p>例えば、柱1事業1で「緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り」の目標がいくつで、それに対して昨年度の実績がいくつだったかを報告します。担当者の工夫や、市民からどういった意見があったかも報告し、市民推進会議の場で皆さんから評価や提案をもらいます。今言われたようなことはしています。</p>
(飛田委員)	<p>その枠組みに合わせた上で、この広報について今年度のターゲットは何か、そのターゲットの実施率がどのくらいかということについては報告されないのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>緑の取組に関するアンケートをしており、対象者は5,000人規模です。これは人口に対して確からしい数字が出るの5,000人程度ということで実施しています。こちらについては、回答率38.7パーセント、1,900人を少し超えるような数です。</p> <p>年代や居住区での分析はしています。30代以下の人々に対し、みどりアップ計画やみどり税を知っているか聞くと、</p>

	<p>あまり認知度が高くないと感じています。</p> <p>こういったものについては今後、Xやウェブページだけでなく、YouTubeその他、30代以下にも届く形で進めていきたいと考えています。</p> <p>(飛田委員) 今の話は、30代に対する認知度を高めるというのがターゲットですよね。</p> <p>(事務局) 私どもとしては一つのターゲットですね。</p> <p>(飛田委員) それをある程度リストに挙げていき、私どもが委員として一つひとつチェックできるようなシステムになっていませんか。</p> <p>(事務局) 現段階ではなっていません。</p> <p>(飛田委員) それをしてもらうほうが見るほうは楽だし、はっきりします。</p> <p>(事務局) 事業や取組が27あります。それを年代や居住区によって分析すると、母数が少なくなってしまい、一般的な回答にならなくなってしまいます。どのような形でつくっていくのが皆さんにとっても理解しやすいのか、検討していきたいと思います。</p> <p>(望月委員) 今の質問に対して、横浜市は実は国連よりも先に進んでいます。国連は、その本体が事業計画をどのようにしたかということについての評価をしていますが、横浜市のこの委員会はダブルチェックをしています。</p> <p>行政のやったことについては毎年度、目標を立てて計画書や事業報告書を出し、計画がどう実行されたか、それぞれの項目についてA B Cという評価をしています。みどりの計画だけでなく市全体の評価になりますが、こんなに厚い資料が出ます。この中では行政の側の評価をしています。</p> <p>ところが、この会議は、それと併行して市民目線での評価をしています。だから、「一歩進んでいる」という意味なのです。</p> <p>今、私たちがやっているのはその市民目線の評価です。</p> <p>(飛田委員) その市民目線の評価はすごく素晴らしいと思います。それを私たち市民がやりやすい形で資料をもらえたほうが、私たちとしては意見を書きやすいかなと思います。</p> <p>(望月委員) 皆さん市民委員で5年間という決められたタームの中で、市民の目線での評価を遂行します。今の段階はスタートしたばかりなので、なかなか理解しにくいと思います。これを重ねていくことにより、横浜市の行政への理解も進むと同時に、市民の皆さんの中の目線もより進化していきます。そのための会議と考えてもらうと、今、飛田委員が言ったような「具体的にこれはどうなのか」という質問もどんどん行政の側に投げかけていくことが、実はこの委員会の一番大事な点です。</p> <p>だから、本当に行政の単なる評価ではありません。行政の皆さんには行政の評価をしますが、それ以上に、市民の目線からの評価を投げかけていきます。その評価も広報という媒</p>
--	---

	<p>体を使い、市民の皆さんが直線的に「こういう評価になっています」というのを市民に投げかけていきます。そういうことが実はこの委員会の目的です。</p> <p>事業の評価それ自体は評価ですが、ここでは更に、市民の皆さんの視線に立ち、こういう広報の委員会がつくられています。ある意味、非常に先進的な取組だと思ったほうがいいです。</p> <p>なぜそれが必要かというと、超過課税という、本来負担しなくていい税金を市民の皆さんに求めているので、より厳しい目線でチェックをすることがこの委員会を成立させた当初の意図なのです。そう理解し、「面白いことやってるじゃん」と思ってらえると有り難いです。</p> <p>(飛田委員) 先生の見方は理解できました。もう少しあはっきり、やらなければいけないリストになっているほうですが、評価する方としてはやりやすいかなと思いました。</p> <p>(望月委員) そのとおりです。でも、それは行政の評価です。どこまで事業が進捗し、その効果がどうだったか、行政の側からの評価はあります。</p> <p>(飛田委員) それを私どもに投げる投げ方として、こういうチェックリストがあります。「本当にそう思うか」と聞かれて「ああ、そうだったのですか」と言うか、「そのとおりです」「もっと素晴らしいです」と答えるか、ある程度整理してもらったほうが、私どもとしてはやりやすいかなという感じがあります。</p> <p>(望月委員) そのとおりですが、どこまで提供してもらえるかというのがあります。やはり質問を投げかけて、「このことは具体的にどういうことを言っているのか」「このデータでこういうことを知りたい。教えて」というように、正に市民目線の質問と意見をどんどん出してもらうのがいいと思います。行政の評価をするシステム的な評価とは少し違う視点です。そういう意味では、システム的ではないのはやむを得ないかなというふうに、私などは思います。でも、行政を見る視点ではそれがものすごく大事です。</p> <p>(飛田委員) システム的にやるとこぼれ落ちてしまう部分があるということですね。</p> <p>(望月委員) そうです。「違うでしょう。行政の皆さんはそう言うけれど、市民の目線から見たら、こういうところが落ちている」という意見を出してもらうのがとても大事です。「どうなっているのか、教えて」という質問をどんどん出していくのがとてもいいのではないかと思います。進んだ、新しい試みの委員会だというふうに位置付けを理解してもらったほうがいいのかなと思います。</p> <p>私は税金をつくったほうなので、ものすごく責任を感じています。市民の目線で、市民の皆さんから意見を直接、反映する組織がとても大事です。どんどん言ってもらい、改善してもらうのがいいと思います。</p> <p>(金井委員) 「みどりアップ」ということで計画による取組を始めて今年が17年目になります。</p>
--	--

	<p>実施する前、日本国内や海外にモデル都市がありましたか。</p>
(事務局)	<p>市民から超過課税でみどり税をいただいているのは全国で初めてです。そういう意味では、初の取組ではないかと思います。</p> <p>全国でみどりを守ったり、創出する取組はやっていると思いますが、みどり税という形で市民からお金をいただき、強力に推進する計画は横浜が初めてです。</p>
(金井委員)	<p>必ずしも世界のどこかの都市をまねしたのではなく、オリジナルですか。</p>
(事務局)	<p>やはり横浜という都市において開発から積極的に守っていかないと、残されたみどりがどんどん減っていきます。昨今、地球温暖化や環境問題が世界的にも非常に課題になってきています。横浜も大都市としてしっかりとみどりを守っていくことが大事なのではないかということです。</p> <p>他の地方都市なら、ここまで積極的に守らなくても、残っていく傾向にあるのではと思っていますが、日本全体では7割がみどりです。やはり大都市としての特徴もあるのではないかと思います。</p>
(金井委員)	<p>他の都市に比べてかなり先を行っている感じがしますが、その割には認知度が低い気がします。必ずしも横浜市民ということではありませんが、普通なら全国的にもっと注目を浴びてもいいはずです。その辺が課題なのかなという気がします。</p> <p>もう少しアピールしてもいいのではないでしょうか。あまり話題にも上りません。皆さんせっかくこんなに一生懸命やっているのに、もったいないです。</p>
(事務局)	<p>他都市の方と話合いの場もありますが、「みどりを守る」という話になると、「そもそもお金がないからできない」という感じです。「横浜市はそういう財源もしっかりときちんと進めて素晴らしい」という話は聞くことがあります。</p> <p>やはり認知度は全国的にも広げていく必要があります。横浜の取組としてPRしていく必要もあるかとは思います。</p> <p>最優先は、市民の理解や共感をいただき、みどりアップ計画で横浜のみどりを守って創出していく取組が大事なのではないかと考えています。</p>
(大竹部会長)	<p>この項目では、「評価・提案」がゴールになっています。今の話も含めて市民の視点で提案や質問を含めてもらえたると思います。</p>
(北原委員)	<p>P4の施策の「主な提案」で、これまでの経緯を非常によくまとめてくれています。</p> <p>みどりがあることを「よい」と思える市民の実感を具体的にどう表現できるのかということです。ただみどりがあるだけでなく、守るという選択があります。きちんとみどりを守る財源があり、それにより便益を得ています。そういう実感値のようなものをいかに表現できるかがすごく大切です。</p>

	<p>今、市民委員の議論もありましたが、マトリックスでの評価ではなく、定性的なメッセージ、言葉があふれていくようなものをイメージしています。「みどりがあつてよかったです。横浜に住んでいてよかったです」という声をどう集めていくか、実感のところを少し提案に盛り込めるといいかなと感じました。</p> <p>(金井委員) 「エコチル横浜」は小学校を対象にしているのですか。</p> <p>(事務局) はい。</p> <p>(金井委員) これはいわゆる紙媒体で、掲示板等に貼つてあるのですか。生徒に全部配布するのですか。</p> <p>(事務局) 一人ひとりに配っています。</p> <p>(金井委員) 小学生から色々な質問や提案を受けるような仕組みはでていますか。</p> <p>(事務局) この出版社の意向が強いです。私どもとしてはみどりアップ計画や横浜の環境について掲載しています。フィードバックとして、出版元が定期的に行っているアンケートなどで「こういった反応がある」というのをいただいているます。</p> <p>(金井委員) もう少しその辺を有効利用したほうがいいのではないかと思います。我々は大学のほうの担当になっていますが、子どもたちから自発的に色々な意見が上がってくるほうが盛り上がります。</p> <p>もう少し小学生の意見を吸い上げるような仕組みに変えたいたほうがいいです。</p> <p>(事務局) これは無料で掲載させてもらっているところはあります。小学生全体に配つてもらえるということは、長い眼で見れば、10年後に成人する層にも見てもらっているということです。若い人に訴求していくにはいい媒体です。今後、エコチルとも密接に情報共有しながら、より良いものという観点で進めていきたいと思います。</p> <p>(金井委員) 先生に授業に取り上げてもらうなどしないと、自分が小学生だったら、そんなに熱心に読むかなというのがあります。中には意識の高い子がいて、放っておいても専門家のような人もいますが、ごく少数です。もう少し双方向のコミュニケーションにしたほうがいいです。</p> <p>(河原委員) エコチルに関しては昨年、小学校で色々な授業をしています。その際、雑談で「私はみどりアップ市民委員になった」と話をしました。校長、副校長、担任など何十人にも話をしています。エコチルを小学生に配つて周知しているのに、校長も副校長も、みどり税を知りません。すごくがっかりしました。</p> <p>そのときは「ああ、知らないんだ」で終わりましたが、これを配つているのに先生が知らないのはひどいのではないかでしようか。</p> <p>昨年1年間、4校ぐらいで総合の時間に、横浜の野菜や</p>
--	---

みどりの話をしました。子どもたちに「横浜野菜はどういうものがいい」という話をしました。

その子どもたちは最初、5月ぐらいには「へえ、横浜野菜、そうなんだ」と、すごく受け身でしたが、だんだん自分で植えたり、土に触ったり、大きくなつたものを食べたり、親に教えたりするようになりました。親が買つたり食べさせたりということも非常に増えていきました。3月の段階で横浜野菜について「ありがとう。河原さんはヒーローでした」という賞状をもらいました。

小学校の範囲に一つだけ直売所がありました。そのクラスの10人ぐらいが毎日、学校帰りに直売所に寄り、その日の野菜は何があるかをチェックし、次の日の先生に伝えていました。先生も横浜市の野菜の本を読んだり、「毎日コマツナを食べている」という話をするようになりました。

私は今年もまたその授業の関係で関わっていく予定です。ほかの学校は、横浜でオリーブを育てるところが多くなってきたのでそのオリーブでどうやつたら横浜らしい商品ができるのかという話が出てきたりして、本当に子どもたちからアクションがだんだん広がっています。エコチルも含めてもっとよく読んでもらつたら、もっと広がるのかなと思います。

「ヒーローです」と言ってくれた人の担任の先生は、国語が主な担当でした。最後の授業では、私が話したことを子どもたちがリーフレットにして親に渡しました。まとめて親に見せて、親からの評価をもらってすごく満足していました。

もう一つは、自分たちが乾燥させた野菜を親に食べもらうという評価もありました。

すごく自立し、横浜のみどりを堂々と語れる子どもたちになっているのを目の当たりにしました。たった1年、5回ぐらいの授業でそんなに変わるのであれば、親も変わるだろうと思います。

あとは、給食の先生が作った毎月のお便りに「横浜野菜とは」「横浜西洋野菜とは」といった記事を載せてもらっていると、30人の中で2人ぐらいは覚えているのです。何回もやると、ずっときっと覚えていられます。

せっかく横浜開港記念日もありますし、その日は横浜市歌と合わせて横浜のみどりを考えるというのもひとつです。私が小学生のときは、開港記念日には、ペリーが来たスライドを毎年見せられました。それと同じように、横浜のみどりについて考える授業を市としてやつたらどうかと思います。

みどりアップ計画でごくたくさんの方の取組をやっているのだなと思いますが、1082.5haはどのぐらいになるのか、実感が全くわきません。横浜スタジアム何個分というような、もっと身近な例で分かりやすくしてもらいたいです。

「幼稚園でみどりを創出した」というのも、例えば、「みどりと一緒にいつも花が咲いているのはこのおかげだ」というように、「これもなんだ」とマークなどで分かりやすくしてほしいです。「このマークは、みどりアップの取組」と紹介すると、「自宅の近くにこんなにあるんだ」と実感がわくのではないかと思いました。

(酒井委員) 行政の評価軸では定量的で、ガチガチだったり、淡泊なイメージになってしまったことがありました。せっかくこ

ういった市民目線でのページがあるのであれば、「こんなことをやっています」「こんなことを感じました」というような定性的なものがあるとバランスが取れて理解が深まると思います。

一番大事なのは共感だと思っています。情報を取って、同じような感情を持ち、「これはいいな。行ってみたいな」と思えるものは共感につながると思います。定量的な軸を取るのではなく、市民の声をたくさん拾っていけたらいいと思いました。

(大竹部会長) 私もすごくもったいないなと思いました。私自身、みどりアップについて全然知りませんでした。友人も、知らない人にしか会ったことがありません。

私も仕事柄、小中学生・高校生やその保護者たち、先生と接する機会が多いです。ちょうど小学校3、4年で地域探検のようなものをやります。5年生で先生が好きなことをテーマにして、3か月に1回ぐらい探求的な授業ができるはずです。

中学生はキャリア教育と受験で、探求にはほとんど使えないというのを先生から聞きます。

高校生は、特に私立の中高一貫校は総合探求にすごく力を入れてもらっています。受験が一般入試から変わりつつあり、正に自分が何をしてきたのか、何をしたいという探求という部分が教育界ですごく注目されています。

そのテーマで横浜の未来を考えるのはすごく分かりやすいです。

小学校3年生と5年生ぐらいが非常にいいターゲット層になります。私学の中学校だったら1年生ぐらい、高校生ならもう何年生でもいいと思います。

こういう横浜のみどりをテーマにし、是非考えてほしいです。市からも教育委員会を含めてどんどん発信してもらえるといいです。

私が小学校の先生たちに聞くと、先生たちも忙しい中、探求のテーマでワクワクする授業をやりたいと、すごく努力していますが、出てくるのは防災や福祉、観光などで、子どもにとってあまり楽しそうなイメージがありません。それよりも横浜のまちや身近なみどりについて考えることが大きなテーマになるような気がしています。教材として「こどもみどりアップ」のリーフレット一つあれば、ここから自分たちで考えればいいと思っています。「これはなんだ

「みどりアップ、聞いたことない」というところから、先生たちも含めて考えること自体が学習のテーマになる気がしました。

こういうリーフレットをもっと学校の教材として活用するような施策もすぐできることではないかと思いました。

「横浜市は子どもたちの提言を歓迎します」という話にして、子どもたちの成果を資料として受け取ってくれる先が市の中にあるだけでも、学校側としてはやる気が変わってくることもあると思います。そんな仕組みや展開の仕方も考えてもいいのではないかでしょうか。

(望月委員) そもそも行政にはCMという概念がありません。民間会社だとCMはものすごく大事で、ものすごいお金をかけています。「うちの会社はこういうところでこういういい商品をつくっています。是非、手に取って見てください。よければ買

	<p>ってください」という活動がメインです。</p> <p>行政はおおよそCMらしくないのです。どうやってみどりを守るのかという冊子が、17年かかってやっとできました。</p> <p>本当は、「うちはこういうことをやっている」ということを、役所の皆さんにもっともっと発信してほしいですが、役所の皆さんは「そういうのはちょっと」という話になるのです。もっとCMをやる意識で進めたほうがいいと思います。下手なのです。難しいと思いますが、大事です。</p>
(金井委員)	お金はかかりますが、横浜市として色々な国際会議に出ていくようなことも必要ではないでしょうか。外国で取り上げてもらったほうがいいです。
(飛田委員)	これだけ先進的だとCMを打たないと話が広がりません。皆さんすごく難しいテーマを抱えています。宣伝が一番難しいです。「人を殺すな」「戦争をするな」と叫んでも、人はそのとおり動いてくれません。
(事務局)	<p>今までもデジタルの広報媒体もやってはいますが、皆さんに届けられていないところもあります。</p> <p>メディアによってターゲットになる年齢層が違うと思います。Xなどは比較的年代が上の人です。YouTubeなどは割と若い世代です。無料でテレビが見られるものもあります。広報費に大体どれぐらいかかるかも算定しながら幾つか検討はしているところです。</p> <p>そういった下地ができててはいますが、では、どういったもので示すか、ささるような映像はどういうものがあるか、これからも引き続き検討しなければなりません。そういう観点では17年間で少しづつ進んできたとは思います。</p> <p>「小学校の授業で」という話もありました。副読本にもみどりアップ計画が登場してきています。それを使っている先生もいるとは思いますが、カリキュラムを作るのが大変との声も聞かれます。教育委員会にも声をかけながら、これをテーマとしてやってもらいやすいようなカリキュラム設定も検討しながら進められれば、子どもたちにもさやってくるのかなと思います。</p>
(飛田委員)	広報部会に教育委員会の人を連れてきてもらうのはどうですか。
(事務局)	なかなか難しいと思います。
(飛田委員)	市民の声を直接届けたいということです。
(金井委員)	教育委員会は元校長や教頭ですか。
(事務局)	そうとは限りません。
(金井委員)	もしそうならあまり期待できません。
(河原委員)	昨年、私が何回かした授業は、はまふうどコンシェルジュ講師派遣で依頼をもらいました。教育委員会とは全く関係なく、農政の事業でした。はまふうどコンシェルジュに

	<p>入っている農家と2人でやりました。そういう事業にもつと予算を広げてもらったり、「こういう授業ができる人がいる」というのを知つてもらえたたらと思います。</p> <p>その授業の最後に、3月23日にパシフィコ横浜で「よこはま未来の実践会議」があり、その会議にも招待されて行きました。</p> <p>午前中は小学校の人たちが農業についてとか、森を広げるにはどうやってクラウドファンディングするかということをテーマに決めて七、八個発表しました。午後から中・高・大学生が発表しました。</p> <p>その人たちはそういう授業をしてここまで出てきていますが、ほかの先生に言つたら「そんなのがあるのですね」という感じでした。もう少し広い層に広報が必要なのかなと思います。せっかくそれぞれがいいことをしていても横につながらないので、なかなか広がらないのかなと思います。</p> <p>(事務局) 「みどりアップ計画」の冊子46ページを見ると、柱3の事業③「子どもをはぐくむ空間での緑の創出・育成」ということで、保育園、幼稚園、小・中学校で先生や子どもたちと連携しながらみどりを創出したり、維持管理を一緒にやっていく取組をしています。子どもたちとみどりをどう結び付けるか、非常に大事です。今日の意見は大変参考になりました。</p> <p>(望月委員) 私の勤務している学院では野庭にこども園を持っていて、みどりアップ計画の事業で芝生化をしてもらいました。園長をはじめみんな感激していました。子どもたちが泥だらけになっていたところがきれいな芝生になり、跳びはねて遊んでいました。</p> <p>地道な活動をしていることはよく分かっています。</p> <p>(金井委員) 関東学院に、森の楽校に必ず参加してほしいです。</p> <p>(望月委員) 前回こちらで、大学生を集めて、そういう活動をしたという証明書を出しました。そのときにはうちの学生も2人ほど参加しました。全部で10何人ぐらい集まりました。</p> <p>(金井委員) 大学としてはいつも四つか五つしか参加しないですね。あまりたくさん参加しているイメージがないです。</p> <p>(望月委員) そのとおりです。大学も組織として何かする話になると、「どういうふうにやりますか」「もしけがをしたらどうなりますか」という話が出てきます。</p> <p>前回は、たしかこの委員会で市民委員の皆さんのが発案し、「大学生を集めて体験学習をしよう」ということでやりました。あれはそういう意味ではすごくよかったです。</p> <p>(金井委員) この広報部会が積極的に営業する場でないことは分かることですが、誰かがやらないと参加数も増えません。ある程度こちらから働きかけないといけません。</p> <p>私がたまたま区のイベントで行った学校の理事長が「もっと地域とコミュニケーションをとらなければ駄目だ」という方針も出ています。</p> <p>窓口になると「面倒くさいことはやりたくない」となりますが、上からガッと通すしかないと思います。ここのチ</p>
--	--

	<p>ームはやらないにしても、別の部署の人がもう少し動いてほしいです。せめて10大学ぐらい参加しないと盛り上がりません。その辺がもどかしいです。</p>
	<p>(大竹部会長) 白熱の議論でしたが、それだけ皆さんのが自分事としてとらえているのだと思います。</p>
	<p>今日の議題1は以上ですが、この場で取りまとめたほうがいいですか。</p>
	<p>(事務局) もらった意見はこちらでまとめます。全部載せるわけではないので、こちらで確認し、最終的にはこういう形でこれまでの意見と今日もらった意見を踏まえ、「評価・提案」の形でまとめます。部会長に確認してもらい、次回、示します。</p>
	<p>(大竹部会長) 続いて、次第の2番、「市民目線での情報提供のあり方について」です。事務局から説明をお願いします。</p>
	<p>(事務局説明)</p>
	<p>(大竹部会長) ありがとうございます。</p>
	<p>まず、6月2日の人生記念樹の配布会で、日時が指定されているものがありました。これができるかどうかについて皆さんで確認したいと思います。もともと取材する予定になっているのは北原委員、飛田委員、河原委員、私という話でした。</p>
	<p>(飛田委員) 私は7月27日は苦しいかもしれません。こちらのほうがいいです。</p>
	<p>(事務局) 人生記念樹は9時から取材しようと思います。</p>
	<p>(大竹部会長) どうしましょうか。</p>
	<p>(北原委員) 2日は午前中なら行ける可能性があります。私が行ってもいいですし、記事のベースなどはつくることができるかなと思いました。</p>
	<p>まず1点目の質問は、構成案についてです。主観ベースで書くのか客観ベースで書くのか聞きたいと思います。</p>
	<p>例えば、子どもの成長における自然体験の大切さや効果をいわゆる客観ベースで書くと、すごくありきたりな言葉になります。自分が子育てした経験や実感を伴うような主観ベースで書くのかで、記事の導入の仕方が全く異なります。</p>
	<p>イベントに参加している人がその様子をレポートするのでしょうか。自分が参加したり、自分の子どもを連れて行って「こういうふうな発見があるんだ」というように温度感を高めていくのでしょうか。</p>
	<p>横浜のみどりも行政的な説明で「こういう理由で守られています」とするのか、「自分はこのようにして、守られていることを実感した」というように書くのかで書き方のトーンが全然変わってくると思います。</p>
	<p>2点目は提案です。「みどり税があるから、みどりがあつてよかった」というロジックになりますが、「よかったと思うのはどんなときか」というような共通の質問を持って行</p>

	<p>き、取材で声を引き出すことが大事です。こちらが市民の声を発信する以上に、市民の声を拾うことで、広報に双方性があつてはじめて、効果があります。それが1本の編集の方針になっていくのではないかと思います。「横浜にみどりがあつてよかったです？イエスorノー」ではなく、「それを実感るのはどんなときか」と、具体的なエピソードを聞くような質問があるといいのではないかと思いました。</p> <p>3点目に「Web掲載」とあります。この体裁だと子育て中の人に届きません。行政のホームページのフォーマットにあてはめると、いかに中身がよくても魅力的に映らず、結局、訴求効果がなくなります。「根本から考え直してもらいたい」と強い語調で言うのは、非常に危機意識を持っているからです。</p> <p>提案ですが、横浜市はシティプロモーションやデジタル戦略などで、外部プラットフォームのnoteを使っています。私は各区区政推進課で「市民ライターの育成」をしています。そこでもどういうサイトに載せていくかがすごく大事です。旭区の区政推進課でもnoteを使うことを提案させてもらいました。</p> <p>横浜市のホームページだとSNSに拡散しようとしても、アイコンが「行政情報」のようなものになってしまい、魅力的に伝わりません。noteのような外部フォーマットだと、魅力的な写真があつたらそれがサムネイルになって流通ができます。</p> <p>ほかのところの情報も一応、ここのWebトップページにあるようなイメージで載るのですが、記事の中身自体を流通させるのはnoteでやってもらうといいです。特にみどりアップに関しては、はまふうどコンシェルジュのようなバックコミュニティがあります。そういうところを通じた拡散もしやすくなります。</p> <p>三番目のチラシ案に関しては、どこかデザインを入れるつもりですか。</p>
(事務局)	はい。
(金井委員)	森の楽校は、特定の日を1日決めてこのイベントを行うのですか。
(事務局)	大学のほうでイベントを企画します。
(金井委員)	各大学でやるのですか。
(事務局)	そうです。大学で実施するところに取材に行きます。
(金井委員)	大学の申込みの締切りはいつですか。
(事務局)	5月中です。
(金井委員)	時間がないですよね。何となく寂しいイベントになるかもしれません。
(事務局)	最終的な申込数はまだ確認できていません。
(金井委員)	それは締切厳守なのでしょうか。ある程度こちらから働きかけないと盛り上がりがありません。

	<p>(事務局) 大学生が子どもの先生役になり、イベント自体は盛り上がると思います。参加する大学が少ない可能性はありますが、大学によって取組の度合が違ってくるので、こちらから無理やり「やってください」と言えません。</p> <p>(金井委員) 理事長が熱心なところは幾らでもあります。そういうところに働きかけないといけません。毎回いいことをしているのに、認知度が上がらないことが繰り返されるのではないかと感じます。</p> <p>(事務局) 今年度は締切りが迫っています。今回、市民委員の皆さんに取材して記事にしてもらおうと考えています。そういったツールをうまく使いながら、来年度以降どのように大学に周知していくか、事業課とも考えていきたいと思います。</p> <p>(金井委員) どうしても相手の縛張りに口を出さないということで、森の楽校はどこの部局がやり、みどりアップはどこがやるということになります。 横の連携がなくはないでしょうが、お互い遠慮し合ってコミュニケーションを取っている感じが伝わってきて、もったいないです。その殻を破らないと、市民委員を任命しても形だけ終わってしまいます。壁を破らないと、本当に一般市民の意見が反映される行政になっていかないと思います。</p> <p>(事務局) 事業によってはこちらから積極的に働きかけているものもあります。逆にPRしていかないと知られない事業もたくさんあります。</p> <p>(金井委員) 担当者を非難しているわけではないのです。森の楽校の締切りが5月末というのだったら、3月ぐらいで「どうするか」という話があってもいいと思います。後手後手になっている感じが否めません。</p> <p>(事務局) 北原委員からの「主観なのか客観なのか」という話ですが、市民の思ったことを伝えてもらうのが市民推進会議の広報誌の趣旨ですので、主観で記事を作成してもらうということです。 それが市民推進会議の記事の意味でもあると思います。 行政のものだと、なかなか主観で広報するのは難しいと思います。市民推進会議という立場から、市民目線で記事をお願いします。</p> <p>(飛田委員) 映像はどうですか。</p> <p>(事務局) 写真がメインと考えていました。</p> <p>(飛田委員) 今後ご検討ください。生き物実験ラボは写真より動いているものを撮ったほうが圧倒的にインパクトが高いです。「ここにホトケドジョウが動いているよ」というように、一部でも動画を撮って発信できるならそれで記事をつくります。それが駄目だとなると文章からなので、教科書のようです。</p>
--	--

	<p>(事務局) 動画を載せられるかどうかについては確認します。私が気になっているのは、撮影時の個人情報の点です。</p> <p>生物の実験教室であればそこの皆さんに同意してもらえばいいですが、人生記念樹などでは写りこんだ方全員に同意をもらうのは難しかったりすると思います。モザイクをかけばいいのかもしれません、せっかくいいことをしているのにモザイクだらけというのもどうかと思います。動画を使った方が効果的な場合など、場合によって使い分けたほうがいいかなとは思いますので、できるかどうか含めて検討させていただければと思います。</p> <p>確かに、実験は写真よりも、子どもたちがキャッキャと言っているほうが面白いかもしれません。</p> <p>(飛田委員) YouTubeやInstagramでは、10秒でもすごく面白い動くものがあればアクセスを稼げます。</p> <p>(事務局) 専用のものではなくても、カメラに付いている動画もいいですか。</p> <p>(飛田委員) それでもいいし、スマホでもいいです。</p> <p>(事務局) 動画やnoteの提案を含めて、ウェブページでの発信の仕方についても検討させてもらえばと思います。</p> <p>(大竹部会長) 実感や共感をゴールにするのであれば、それを共通質問にしていくとより分かりやすいものになるかと思います。一緒に検討ください。</p> <p>6月2日なら行けそうだということが分かりました。人生記念樹は6月2日の取材を実施するということで大丈夫ですか。</p> <p>(飛田委員) 2回取材に行かなければならないのですよね。</p> <p>(事務局) 2回まで可能です。</p> <p>(大竹部会長) 主担当も1人決めていかなければならないという話だったと思います。6月2日、人生記念樹に行くとしたら、2人のどちらかが主担当になっていたら大丈夫だと思います。</p> <p>(北原委員) サラッと書いてよければ、6月2日の取材を引き受けます。そのプロセスをみんなで一生懸命やるより、サクッと書いて、飛田さんのコメントを聞きながら出すということであればやれます。一緒に議論しながらきっちり書いてくださいとなると、そういう時間をつくるほうが難しいかなと思います。</p> <p>(金井委員) 若者世代向けの記事は、最初は酒井委員にやってもらうのがいいです。いいでしょう。</p> <p>(酒井委員) はい。</p> <p>(大竹部会長) 人生記念樹の主担当は北原委員にお願いします。森のイベントは7月27日で、飛田委員は行けないと言っています。時間が決まっているのですか。</p>
--	--

	(事務局) 寺家は、チラシだと13時から16時半ぐらいです。
	(大竹部会長) 27日は寺家の午後なら行けますが、舞岡の午前は行けないと思います。
	(河原委員) 27日は今のところ空いているのでどちらでもいいです。
	(大竹部会長) どちらがいいでしょうか。 それ以外にポストカードと調査部会ですね。
	(飛田委員) 4人ということは、必ずどれかしなければならないということですね。
	(大竹部会長) 私は寺家なら行きます。調査部会は日程が決まっていて10月です。飛田委員、どうしますか。
	(飛田委員) どれでもいいです。
	(大竹部会長) 調査部会かデザインの方か、どちらにしますか。
	(飛田委員) 調査部会にします。
	(河原委員) 動画を撮るなら寺家のほうがいいのかなと思います。写真だと押し花かなと思います。ただ親子押し花教室で、どうやって「みどりがあってよかったです」というふうにするのかなと思います。
	(飛田委員) レヂオさんは話が面白いです。
	(河原委員) やって面白そうなのは寺家かなと思います。
	(大竹部会長) 記事を書くかチラシか、どちらがいいですか。寺家は近いので、寺家にさせてもらえるなら有り難いです。
	(河原委員) チラシ頑張ります。
	(大竹部会長) では、子育て世代は7月27日の寺家のほうで、主担当は私です。調査部会は飛田委員が担当です。チラシは河原委員です。若者のほうは酒田委員担当です。 残っているのはチラシの校正ですが、どうしましょうか。
	(北原委員) チラシはいつ出来上がる予定ですか。
	(事務局) チラシは次回の部会で、文字の入った案を提示します。 それが秋ごろかなと思います。出来上がるのが2月から3月です。10月から2月までの間にデザイン会社も入れてデザインをしていく予定です。
	(飛田委員) 画像はどこから取ってくるのですか。
	(事務局) こちらで持っている写真でもいいです。
	(飛田委員) 私たちが取材したものを使うのですか。

	<p>(事務局) 使うこともあります。チラシ案の形で提示できると思います。</p> <p>(大竹部会長) 校正のどこまでやるのですか。</p> <p>(事務局) キャッチコピーがここに入るとか、写真が表面で、裏面にしっかりと情報を書き込むようなイメージを共有した上で、どんなものを文章として載せるのがいいのかのようなイメージをもらえると、チラシ案につながるかと思います。</p> <p>(河原委員) キャッチコピーは今日決めたほうがいいですか。</p> <p>(事務局) もう時間がありません。10月にもう一度、チラシ案を提示できると思います。一旦、キャッチコピー案のようなものを子育て担当の皆さんと相談し、部会で皆さんに意見を聞くほうがいいかと思います。</p> <p>(大竹部会長) 裏面に色々なテーマがあります。これもまだこれから検討ですか。</p> <p>(事務局) はい、そうですね。</p> <p>(大竹部会長) どうでしょうか。</p> <p>(北原委員) キャッチコピーにするのは難しいかもしれません、「横浜市民が税を払うことにより、誰もが直接的にみどりを守ることに貢献している、あなたも守っている」というのが伝わるといいなと思います。それが当事者性で、市民全体が担っていることは非常に素晴らしいです。「関係ない誰かがやっていることではなく、あなたも当事者」ということが伝わるといいと思います。</p> <p>(金井委員) 森の楽校は、各大学の裁量で何かやるのですか。日がちがまだ決まってないでしょう。</p> <p>(事務局) 昨年度で言うと、7月から9月ぐらいの間みたいなことでした。大学や子どもの夏休みに合わせたりといった形です。</p> <p>(大竹部会長) よろしいでしょうか。 それでは、次第2は以上といたします。 では、ここからの進行は事務局に戻したいと思います。</p> <p>(事務局説明)</p> <p>(事務局) 本日も活発なご議論をありがとうございました。本日の議事内容は以上で終了いたしましたので、「横浜みどりアップ計画市民推進会議 第59回広報・見える化部会」を終了いたします。</p>
資料 ・ 特記事項	次第 資料1 市民推進会議2024年度報告書（案）【抜粋】 資料2 市民目線での情報提供のあり方について